

日向市におけるインフラ整備を契機とした市民参加とソーシャル・キャピタル醸成の関係*

A Study on the Relation between Social Capital Development and Citizen Participation along with Infrastructure Development in Hyuga City *

辻 喜彦**・松ヶ野佑子***・吉武哲信****・出口近士*****

By Yoshihiko TSUJI**・Yuko MATSUGANO***・Tetsunobu YOSHITAKE****・Chikashi DEGUCHI*****

1. はじめに

近年、地域活性化やまちづくりの分野における市民参加(以下、PI)については、国土交通省のガイドラインが示される等、運用事例や関連する研究および報告も増えている¹⁾²⁾。一方、地域活性化やまちづくりを担う市民やコミュニティのポテンシャルとしてのソーシャルキャピタル(以下、SC)への関心も高まっている³⁾。この背景には、従来、道路や鉄道、あるいは工業用地などのインフラ整備を通じて地域産業の振興や生活環境の改善を図ることが目指されてきたが、近年では、インフラ整備型アプローチだけではその目的が達成し難くなってきていることがある。例えば、衰退した中心市街地や農村の再生には多くのインフラ整備を実施しながら顕著な効果が上げられていないが、その理由の一つには、住民やコミュニティが整備されたインフラを十分に活用できない(活用策を生み出せない)ことがあろう。すなわち、インフラ整備の際にはエンドユーザーである住民やコミュニティのポテンシャルを活かすことが必要であり、これがSCへの関心に繋がっていると言える⁴⁾⁵⁾。

さて、宮崎県の地方都市である日向市は、永らく中心市街地の衰退に苦しんできた。その対策として日向市では、1996年より土地区画整理、鉄道高架、商業集積等による街なか再生プロジェクトが開始され、現在も進行中である。このプロジェクトの特筆すべき点は、1)複数のインフラ整備に対し、多様な事業主体および市民、行政、専門家グループがこのプロジェクトに関わり、「日向都市デザイン会議(以下、D会議)」がプロジェクトの全体運営にあたったこと、2) D会議は、中心市街地活性化の主役は市民であるべきとの考えから、図-1に示すようにプロジェクトの計画段階から多くの市民を巻き込み、組織体制を構築し、そして街の課題が住民の目にみえるよ

*キーワードズ：計画手法論、市民参加、ソーシャル・キャピタル

**学生員、宮崎大学大学院農学工学部総合研究科
(宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地、
TEL0985-58-7331、FAX0985-58-7344)

***非会員、(株)大進

****正員、博(工)、宮崎大学工学部土木環境工学科

*****正員、工博、宮崎大学工学部土木環境工学科

うにすることを主眼としたことである⁶⁾⁷⁾。

本稿は、この日向市街なか再生事業を事例とし、プロジェクトにおけるPIの内容を整理し⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾、プロジェクトを通じて、市民間にSCが育まれたことに関し考察するものである。なお、著者らの先の研究¹¹⁾では、この日向プロジェクトに関する市民の評価よりSCの醸成を確認しているが、プロジェクトとSC醸成との因果関係については未だ明らかにできていなかった。したがって本研究では、日向プロジェクトに参加した市民を対象として、参加したプロジェクトの評価や満足度、プロジェクト後のまちづくりへの参加等に関するアンケート調査を実施し、共分散構造分析を用いて、1)プロジェクトに関わった市民の日向プロジェクトに対する満足度がSCの醸成に影響を与え、2)日向プロジェクトに対する満足度は現在のまちづくり活動に影響を与えていること、の2点を明らかにすることを目的とするものである。

2. ソーシャル・キャピタル醸成を主眼とした市民参加

(1) 市民参加の経緯

表-1は、日向プロジェクトにおける市民参加の機会をその目的別に分類したものである。計画を実質的に議論するD会議は1998年にスタートしたが、市民参加の機会は1999、2000、2002年の入郷地区の一般市民に向けて

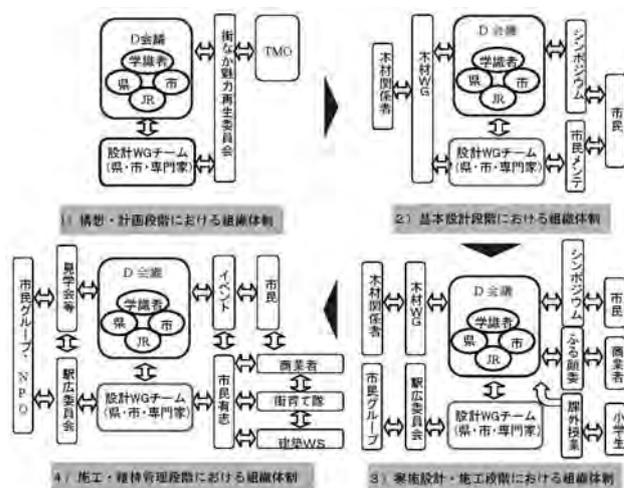


図-1 日向プロジェクトにおける組織体制の変遷

表-1 日向プロジェクトにおける関連委員会一覧

	連立+区画整理事業等 (県+市)	中心市街地整備(市)	複合拠点施設 整備事業(市)	中心市街地活性化 基本計画(市)	特定商業集積整備 事業(市+民間)	
1998年度	日向地区 都市デザイン 会議	日向市街なか魅力 拠点整備検討委員会	日向市生活・文 化交流拠点地区 整備推進委員会	日向市中心市街地活性化基 本計画策定委員会・幹事会		
1999年度		日向市街なか魅力 拠点整備検討委員会			ひゅうが商業タウンマネー ジメント構想策定委員会	
2000年度		日向市街なか魅力 再生検討委員会			ひゅうが商業タウンマネー ジメント計画策定委員会	
2001年度		日向市駅周辺道路 設計ワーキング部会	日向市駅周辺街なか交 流拠点整備検討委員会	日向市福祉のまちづくりモデ ル地区整備計画検討委員会	ひゅうが商業タウンマネー ジメント計画策定委員会	
2002年度		日向市駅周辺地区ふるさ との顔づくり委員会	日向市駅周辺街なみ 景観づくり協議会			
2003年度					その他の団体	
2004年度					富高小学校	
2005年度			日向市駅周辺地区 駅前広場整備検討 委員会		中心市街地活性化基 本計画検討委員会	
2006年度						
2007年度				新町まち育て グループ	中心市街地活性化 協議会	建築士会日向支部
2008年度		日向市駅周辺地区 交流広場整備利活用WG				
2009年度						



写真-1 小学生が設計した杉屋台



写真-2 歩道の段差試験

5つのたまいがひゅうがまちづくり
デザインのキーワード

陽たまり 風**たまり**
人たまり
緑たまり 水**たまり**

「おもてなし」と「おかえし」できる空間の創出による
街への想いの共有

図-2 建築士会による「まちづくり作法書」の一部

開かれたシンポジウムから始まっている。この中でもSCの観点から特に重要なものは、2002年にスタートした「まちづくり課外授業」、D会議のランチ組織である「駅前広場整備検討委員会(以下、駅広委員会)」と地元建築士会有志による「街の作法書づくりWS(以下、建築WS)」である。「まちづくり課外授業」は、日向プロジェクトに関連した街の活性化のために地元富高小学校6年生を対象とした体験参加型の授業であり、2002～2007年に計3回開催された(写真-1)。

駅広委員会は、D会議において議論された、駅舎、駅前広場、街路、公園等のインフラの設計デザインをベースに、さらに整備後の使いやすさの観点からのデザイン改善の検討等を目的としている。例えば、駅前広場における歩車道の段差については、2004年に車イス利用者と視覚障がい者の参加を得て、その望ましい段差と勾配を検討するための実験を行なった。この実験では、数種類のサンプルを設置し、実際に体験してもらうことにより、日向オリジナルの歩車道境界縁石を決定した(写真-2)。また、2005年には、地区内の案内サイン数種類の試作品を道路上に設置し、周辺住民や店主に確認してもらい、この結果に基づきデザイナーはサイン板形状や色調を改良し、その後D会議で最終デザインを決定している。

「街の作法書づくりWS」は、駅周辺の街区整備に合わせて地域にふさわしい建築デザインを誘導するために、建築士会有志がD会議委員、市担当者の助言等を得て、街並みづくりに向けた自主的な建築ルール(「まちづくり作法書」としてとりまとめ、市長へ提言したものである(図-2)。

なお、日向プロジェクトにおけるPIは、表-1に示すように委員会委員だけでなく、商店主、子ども等の一般市

表-2 日向プロジェクトの進捗に伴うイベント開催の推移

開催年度	市民が主体で開催したイベント
1999～2002年度 富小授業(1)	(この段階ではまだ開催されていない)
2003年 ＜年間3回＞	土曜夜市・日向十五夜祭り・中里村交流イベント ＜年間イベント集客数:約3,400人＞
2004年度 富小授業(2) ＜年間7回＞	商店街招福餅まき・日向十五夜祭り・土木の日フェスティバル・クリスマスイベント・土曜夜市・ハロウィン・「杉コレクション2004」 ＜年間イベント集客数:約6,350人＞
2005年度 舗装材・案内サイン試験 ＜年間9回＞	スペシャルオリンピック・土曜夜市・七夕祭り 日向ひよっこ夏祭り・街なかハロウィン・日向十五夜祭り・ブラックイルミネーション・ゴールデンゴールズ歓迎式典・周年事業イベント ＜年間イベント集客数:約12,550人＞
2006年度 新駅開業式典 ＜年間7回＞	土曜夜市・七夕祭り・日向ひよっこ夏祭り・街なかハロウィン・日向十五夜祭り・ゴールデンゴールズ歓迎式典・新駅開業市民イベント ＜年間イベント集客数:約27,100人＞
2007年度 西口駅前広場完成 富小授業(3) ＜年間8回＞	土曜夜市・七夕祭り・日向ひよっこ夏祭り・街なかハロウィン・日向十五夜祭り・西口駅前広場完成イベント・ジャズコンサート ＜年間イベント集客数:約17,700人＞
2008年度 交流広場完成 ＜年間10回＞	土曜夜市・七夕祭り・日向ひよっこ夏祭り・街なかハロウィン・日向十五夜祭り・「杉コレクション2008」・駅前交流広場完成イベント ＜年間イベント集客数:約25,350人＞
2009年度 ＜年間23回＞	土曜夜市・七夕祭り・日向ひよっこ夏祭り・街なかハロウィン・日向十五夜祭り・ゴールデンゴールズ歓迎式典・ひゅうがぶらっと駅市・子ども街なか清掃・キャンドルナイト ＜年間イベント集客数:約127,100人＞

民や木材関係者、建築士会等の特定グループをも対象として、計画～設計～施工～管理の各段階ごとに様々な機会が設けられていることが特徴である。

(2) 市民主体によるイベント等の開催

プロジェクトの進捗に伴い、市民発意によるイベントや祭りも多く生まれている。表-2に2003年度から中心市街地で開催されたイベント・祭りを示す。多くのイベント・祭りが民間主導で開催されていることは明らかであり、2003年度は年3回集客数約3,400人だったが、2009年度には年23回集客数約127,100人規模に拡大している。駅前広場等の公共空間整備進捗に合わせて、大きなイベント・祭りを民間主導で実施できるようになったことは、新たに整備された環境や空間を上手く活用できる民間のネットワーク(SC)が育ってきた一つの証左であろう。

(3) 日向プロジェクトとSC醸成の関係

a) 調査の概要

本研究では、市民の日向プロジェクトへの参加に対する満足度がSC醸成に与える影響の度合いを、共分散構造分析を用いて明らかにする。

アンケート調査は2008年12月に実施した。設問は表-3に示すように、(1)個人属性(年齢、性別、居住年数)、(2)プロジェクトへの参加に関する2項目、(3)日向プロジェクトに参加する以前に関する3項目、(4)プロジェクトで得たことに関する13項目、(5)日向プロジェクト後のまちづくり活動について4項目、とした。調査対象者は、

表-3 アンケート調査の設問内容

個人属性	年齢、性別、居住年数
日向プロジェクトへの参加について	所属していた委員会等
	イベントへの参加度合い
日向プロジェクトへ参加する以前について	日向の街に関心があった
	積極的に活動していた
日向プロジェクトで得たことについて	プロジェクトに関心があった
	活動の成果を実感できた
	価値観を共有できる仲間ができた
	地域の人々とのつながりができた
	市民と行政の関係が
	知識が豊かになった
	社会貢献ができた
	達成感や充実感を味わえた
	周囲の人々に喜ばれた
	信頼できる行政担当者ができた
日向プロジェクト参加後のまちづくり活動について	人との交流が増えた(年齢層、職業、価値観、他地域、知らなかった地域)
	街なかでの活動が楽しい
	積極的に活動していきたい
	日向の街に関心がある
	グループに所属し活動している

表-4 調査概要

調査対象者	・日向プロジェクト関連委員会に参加した市民委員 65名 ・建築士会日向市文化的 10名 ・富高小学校教諭(当時) 7名
調査方法	郵送方式
調査期間	2008年12月25日～2009年1月30日
回収率	64.6%(53票/82票)

日向プロジェクト関連委員会に参加した市民委員と建築士会日向支部、まちづくり課外授業を担当した富高小学校の教諭の82名である。アンケート票は郵送で配布し、その結果53票の回答が得られた。回収率は64.6%である。調査概要を表-4に示す。

b) 共分散構造分析

日向プロジェクトと市民のSC醸成との因果関係を明らかにするために、共分散構造分析を適用した。まず、53サンプルに対し因子分析を適用したが、累積寄与率は因子5までで68.7%と概ね良い結果を得ている。次に仮説を以下のように設定した(図-5)。

[仮説①]プロジェクトに一定の役割を担って参加することで、プロジェクトに対する満足度が向上し、この満足度が市民のまちづくり活動への参加意欲を高め、現在のまちづくり活動に影響を与える。

[仮説②] プロジェクトに対する満足度は人々の信頼や規範、ネットワークの形成(SCの醸成)に影響を与える。



図-5 仮説の概念図

抽出された因子を潜在変数とし、「日向プロジェクトに対する満足度」、「プロジェクト参加前後のまちづくり活動に対する参加意欲」、「人に対する信頼」とした。

分析に基づく因果パスを、誤差項を省略し図-6に示す。結果は、5%水準で全て有意である推定値(標準化推定値)が得られた。適合度指標はGFI=0.840、AGFI=0.753、CFI=0.971、RMSEA=0.053と十分な適合を示した。

図-6での「信頼」に関する潜在変数と観測変数、「イベントへの参加度合い」や「グループで活動」という観測変数が、ネットワークの形成(SC醸成)に関連する。これらを見ると、「日向プロジェクトに参加する以前のまちづくり活動参加意欲」と「満足度」の相関は0.22と低く、一方で、市民が委員として日向プロジェクトに参加し、「知識が豊かになった」「社会貢献ができた」と認識することで日向プロジェクトに対する「満足度」が高まるというパスが存在する。この「満足度」の向上が行政やプロジェクトを通して知り合った人に対して抱いた「信頼」に影響を与えていることが確認できる(パス係数0.62)。さらに、「満足度」が「日向プロジェクト後のまちづくり活動への参加意欲」に影響を与えていること(パス係数0.57)は重要である。また、「日向プロジェクト後のまちづくり活動への参加意欲」は「イベントへの参加度合い」や「グループで活動」という観測変数に対して0.35、0.54と少なからず影響を与えているといえる。

3. 考察とまとめ

本研究では日向プロジェクトへの市民参加とSC醸成の因果関係が明らかにした。分析の結果をSCの評価観点より考察すると、1)日向プロジェクトではシンポジウムやまちづくり課外授業、イベント、委員会などを設け、インフラ整備のプロセスに市民を巻き込むことによって、市民のプロジェクトに対する満足度が高まった。2)日向プロジェクトに関わったことで得られた満足度は、市民の信頼形成、まちづくり活動への参加意欲や行動に正の影響を与えていることから、SC醸成に良い影響を与えているといえる。具体的には、子どもたちによる街育てグループが自主的始めた街なか清掃活動に、プロジェクトへ参加した市民委員らが賛同し、さらに一般市民や商店主も参加する定期的なメンテナンス活動のネットワークへと展開している。3)駅前空間への愛着や誇りを育んだ日向プロジェクトに対する満足度の向上は、現在のまちづくり活動に影響を与えているといえる。具体的には、商店主らによる街なかハロウィンのイベント企画・開催等は日向の新たな風物詩として発展し多くの市民に親しまれ、また建築士会によるまちづくり作法書は、景観誘導の際の重要なチェック項目として地域住民で認知される等、協働まちづくりを実践する原動力となっている。

4)日向プロジェクトに対する満足度が高まる要因としては、パス係数の大きさから「知識が豊か」になった「社会貢献」ができたという観測変数が挙げられる。したがって、市民が「知識が豊かになった」「社会に対して貢献ができた」と実感できるようなインフラ整備と参画機会を促進していくことが、まちづくりへの自発的な参加とSC醸成に有効な手法と考えられよう。

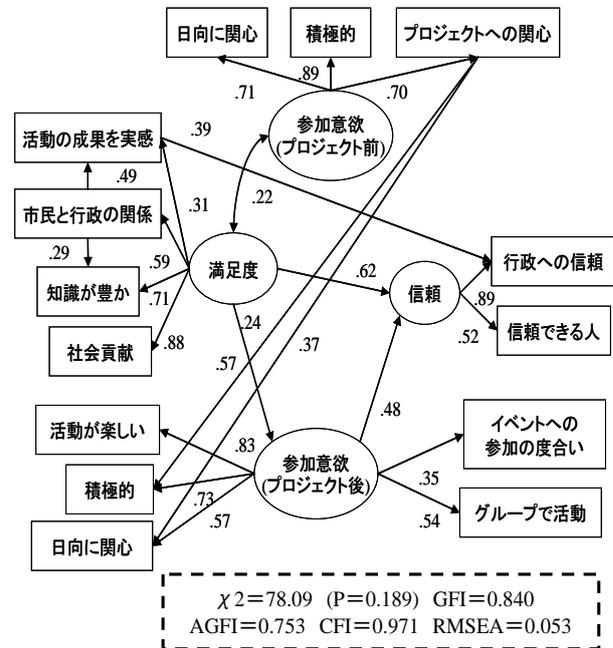


図-6 共分散構造分析より推定される因果構造

参考文献

- 1) 国土交通省:公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン,2008.
- 2) 石田東生他:「行政に対する住民の信頼意識にPI活動が与える影響」,第39回土木計画学研究・講演集,No.177,2009.
- 3) 遠藤園子,矢嶋宏光他:「PI実施が地域にもたらす効果」,第39回土木計画学研究・講演集,No.176,2009.
- 4) 大阪大学 NPO 研究情報センター:「日本のソーシャル・キャピタル」,2005.
- 5) 新谷大輔:「産業集積とソーシャル・キャピタル」,
<http://www.geocities.jp/das720/research/paper/shuseki0503.pdf>.
- 6) 篠原修:「土木デザイン」の現在+コラボレーション」,建築画報特別号,No39,2003.
- 7) 日向地区都市デザイン会議:「市民・行政・専門家の協働による駅を中心としたまちづくり」,(財)udc,2007.
- 8) 宮崎県県土整備部日向土木事務所:「日向地区都市デザイン会議報告書」,2007.
- 9) 日向市:「日向市駅周辺地区景観マネジメント業務報告書」,2009.
- 10) 篠原修他:「新・日向市駅」,彰国社,2009.
- 11) 辻喜彦,斉藤詩織,吉武哲信,出口近士:「インフラ整備と併せたソーシャル・キャピタルの育成に関する研究-日向市街なか再生事業を事例として-」,土木計画学研究・講演集,Vol.38,2008.